

## 議 事 要 旨 (公開用)

- 件 名 令和3年度第2回月形町義務教育学校設置審議会
  - 日 時 令和3年11月30日(火) 午後4時30分～6時10分
  - 場 所 月形町役場 第一会議室
  - 出席者 委員：8名(別紙のとおり) ※ 欠席：1名  
教育委員会：教育次長ほか3名
  - 傍 聴 なし
- =====

### 1 開 会

【開会：教育次長】

### 2 会長挨拶

【挨拶：竹田会長】

- ・ 皆さん、こんばんは。4時半からの開会ということで、日も短くなり外も真っ暗になりました。月形も25日に初雪といいますか、沢山の雪が降り月形らしくなってきたという状況でございます。
- ・ この審議会ですけれども、先般、私が会長、東出さんに副会長を受けていただき、発足してございます。
- ・ 前回、事務局の方から基本方針を示し、皆さんからご意見をいただき、承認をいただいたというような形でございます。
- ・ 今回、第2回になりますけれども、皆さんの手元にあります議事に従いまして、進めてまいりたいと考えています。皆さんから忌憚のないご意見をいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

### 3 議 事

【進行：竹田会長】

#### (1) 本町の現状について

※ ア～エまで一括して説明

【説明：主幹】

- ・ 前回、小中一貫教育及び義務教育学校の制度や背景について説明
- ・ 本日は、本町の現状を踏まえ、義務教育学校の必要性について審議をお願いしたい。

(P-1)

- ・ 1 学級が 10 名未満の学級が発生（小 4、中 3）

（P－2）

- ・ 今後も児童生徒数の減少が見込まれる。
- ・ R 7・8 年度では、新 1 年生も 10 名未満
- ・ 今後、40 年間の長期ビジョンをみても減少を予測

（P－3）

- ・ 資料 1 は学校で作成したもの  
最下段赤枠を抜粋したものが本書
- ・ 本町では、小学校 1 校、中学校 1 校ということもあり、比較的連携した取り組みを実施

（P－4）

- ・ 資料 2 は、令和 3 年 4 月 8 日開催の第 1 回地域拠点施設整備等審議会の資料を抜粋（全体）
- ・ これらの現状を踏まえて、次の議事において、義務教育学校の必要性について審議をお願いしたい。

#### 【質疑・意見等】

- ○ （竹田会長） 2 頁の児童生徒数の見込みの中で、令和 8 年で 1 年生が 9 名、2 年生が 8 名という推計になっています。例えば、この 2 学年が両方とも、1 年生と 2 年生で繋がりますけれども、このような場合の複式の基準はどのようになりますか。
- （主幹） 7 頁を見ていただければと思います。「(ア) の※印」になります。基本的には、小学校の 2 つの学年で 16 人以下が複式の基準になります。1 年生を含む場合は 8 人以下となります。例えば、この学年が 2・3 年生になったときに 1 名転校すると複式に該当しますので、今後も可能性は出てくると思います。

## （2）義務教育学校の必要性について

※ ア～ウまで一括して説明

#### 【説明：主幹】

先ほどの現状を踏まえ、義務教育学校の必要性について、審議をお願いしたい。

（P－7）

- ・ 人口減少及び児童生徒数の減少が一番の課題と考えている。  
今までの学校統合にみるように、今後、児童生徒数の減少により集団活動の制限が想定される。
- ・ インターネットの普及などに代表されるように、社会的な変化による子供同士の関わり合いや大人と子供のコミュニケーションが減少
- ・ 「(イ) 義務教育の充実について」は、本町の固有の課題ということではなく、教育

制度における課題として本町も該当する旨の趣旨

・ 「中1ギャップ」

小学校1校、中学校1校であり、固定化された人間関係がそのまま中学校へ移行しており、新たな中学校への入学を起因とする不登校・いじめ、暴力行為については、該当がないものと考えている。ただし、学習面における不適應については、教科担任制となることや授業内容も難しくなることから、一定程度のギャップは発生していると思われる。

(P-10)

・ 施設一体型の場合の維持管理費の縮減

本年度開校した義務教育学校の一部では、2校のときと比較し全体で3割の維持費削減

(P-11)

・ 小学校高学年におけるリーダーシップの育成

1年生から9年生になることにより、今まで小学校でリーダーだった6年生が埋もれてしまうことがあり、特に取り組みへの工夫が必要

(P-12)

・ 義務教育学校の導入について、今まで経験したことのないことであり、様々な懸念事項も発生すると思われる。ただ、今後、児童生徒数が減少していくことを考えたときに、「どうあるべきか」ということを考えていく必要がある。

・ 本町の現状、課題、導入のメリット・デメリットを踏まえ、総合的な方向性について記載しました。様々な考えもあろうかと思しますので、ご意見をいただければと思います。

・ 本町には、平成13年3月まで札比内小中学校が存在し、現在の小中一貫教育に非常に近い形であったと思う。メリット・デメリットについて、経験してきたこともとても多い。

札比内小中学校を卒業され、現在、保護者となっている方も多く、義務教育学校を考えたり、想像したりすることはある程度可能ではないかと考える。

**【質疑・意見等】**

- (竹田会長) 子ども園で、将来、その当事者となられる方ですけれども、何かご意見があれば。
- ○ (鈴木委員) 建物の耐久年数があり、建て替えなども検討する時期であることから、義務教育学校の設置を検討されていると思います。そうした場合、あと5年くらいで決めるという感じでしょうか。
- (主幹) 耐用年数というのは、あくまでも一つの目安となります。この期間が来た

からまったく使えなくなるということではありません。また、何年までにとり期限を区切り、それまでに決めないとだめということではありません。ただ、今ほどのおり、まちの計画として拠点施設があり、施設の老朽化、今後の児童生徒数も減少していくということを総合的に考えたとき、学校の整備には5年程度かかりますので、今の段階から予め方向性を出していかなければ間に合わないということで協議を始めていただいていた状況です。

- ○ （鈴木委員）10年以内といいますか、現在の子どもの園の年中の子が、中学校や小学校高学年となる頃が変わるかもしれないという感じでしょうか。

● （主幹）まず、この審議会で義務教育学校が必要かどうかという判断があります。その後に、整備を進めるためには、基本構想、基本設計、実施設計、工事というように5年程度のスパンが必要となります。まず、この審議会でオーケーが出るかということ、その後の整備の時間、予算の問題もありますので、町の財政的な計画も踏まえ、何年次になるかという実際の年数が決まっていくと思います。今は、その入り口の段階になろうかと思っています。

- ○ （鈴木委員）お話を聞いていて、そのような方向で進むのかなとか、メリットなどを聞くとうごくいいと思います。しかし、先ほどおっしゃっていた歌志内の学校に視察に行かれ、校長先生など学校サイドのお話を聞かれたことを今教えていただきましたけれども、保護者サイドの意見というのを正直聞いてみたいと思いました。私の職場の人で、当別も来年度から義務教育学校になるという話を聞いていて、結構、世間的に進んでいるまちという実感はあります。その方に「どうなんですか」という質問をしましたが、全然わからない。まだ、行ってないからわからない」というお話で、いざ、来年度から変わるという人でもわからない状態でした。

前回のときに、私たち委員が「この義務教育学校をどうしていくか」を判断する任務があることをお聞きした。学校の先生たちが良くしていただけるのはもちろんですが、数年経った学校の保護者の方の意見というのをうごく聞いてみたいと思いました。例えば、コロナ禍なので無理かもしれませんが、私たちも視察に行かせてもらうとか、学校の保護者の方に月形町からアンケートで、「どういうところが良かったですか」、「困ったところはどこですか」、「前の小学校と中学校が別だったときと比べてどうですか」というようなアンケートをとっていただくなど、私としては、保護者サイドの生の声というのを聞いてみたいと思いました。

● （主幹）今、歌志内の方にしか視察に行けていませんけれども、率直なお話として「保護者の方の反応なり、声というのはどうですか」というお話はお聞きしました。結論から言いますと、「正直、保護者の方からは、ほとんど声がありません」というのが実態のようです。良くも悪くも。結果として「子供たちは元気に通ってくれている」と

のお話もありました。成果ですけれども、なかなか近隣では最近始まった制度ですので、教育効果が出るまでには時間がかかるというのが実態ではないかと思います。校長先生にもその辺りも聞きましたけれども「今後のことになる」ということでした。直近の置かれている状況としましては、児童生徒数が減り、集団活動を行う規模に耐えられなくなってきているというような現状の中で、今の入口の段階として、どこまで精度の高いものを求めていくかというのは、一つ難しい部分もあるのかなと思います。

- ○ (堀(美)委員) 今日の説明を聞く限り、人数が少ない中で工夫してやっていくには、義務教育学校のような形を取り入れるのがいいと思いました。既に小学校も中学校も1校ですし、保護者や地域の方の理解が得られれば、いろいろスムーズに進んでいくと思いました。

厚田に友人がいて、厚田の義務教育学校は去年くらいから学校を新設していると聞いています。統廃合をきっかけに新しい学校を作るため、いろいろと小学校を集めて義務教育学校を作っていた経緯もあったようです。そのような面を考えると、月形町も理解が得られれば、スムーズに行くのかなと思います。その友人は保護者ですけれども、聞いたところによると「小学校高学年から教科担任制も入って、子供の学力も上がった気がする」ということや、部活に関しては「小中で体育館が一つになるので、部活をする活動時間が減ってしまう」など、その他に「厚田では、月形町のように総合体育館やアリーナなどの施設もないようなので、不便をしている部分もある」というようなことも言っていました。やってみないと分からないところもあるので、いろいろ工夫しながら進めて行けば、いい方向に行くのではないかと期待している感じです。

- ○ (竹田会長) この資料の中で、メリット・デメリットについて書かれていますけれども、運用の課題が出てくるのではないかと思います。教育現場の先生たちの負担がかなり大きくなるのではないかとの思いもあります。将来のことではなく、今の校長先生や教頭先生の立場の中で、何かそのような課題があるとなれば、何かありましたら。

- (山下委員) まず、最初に大きなメリットとして、子供たちの数が減り人間関係が固定されている中で、小学校と中学校が一緒になることによって子供も増えますし、教員も増えます。教員との関わりもかなり増えるということもありますので、そういうメリットを生かすのが、ここの義務教育学校のいいところかなと思います。それと同時に中学校の先生も入るので、学力の向上ということでも、かなり効果的だと思います。デメリットとして、そこに書いてありますけれども、やはり、小学校と中学校の今現在の文化といいますか、小学校教諭と中学校教諭として、小学校は学級担任制、中学校は教科担任制なので、その部分が一緒になったときにスムーズになるというのは、教師側の

意識改革も進めていかなければならないということです。歌志内にも行かせてもらいましたが、新しい学校ができることを教職員、地域の皆さんも「新しい学校」という思いでみていただければ、きっと良い方向に行くのではないかと思います。今の段階で結論としてデメリットという部分もありますけれども、そういうメリットを生かしながら、進めていくのも一つの方法なのかなと考えます。

- （箕田委員）堀委員がおっしゃったように「やってみないと分からない」というところだと思います。私も経験ありません。職員もちろんありません。町民の方、保護者の方、子供たちで作り上げていくというスタンスで捉えていただかないと、最初から出来上がっていて「うまくいくでしょう」とは、やはりならないものだろうと考えます。後は、やはり準備には相当な期間が必要になってきて、教育課程一つをとっていても、今も小学校と中学校で繋がった取り組みはしていますけれども、今度は繋がるのではなくて、一体にならなければならない。一体となるには、融合、解け合う努力が必要になってきますので、その辺は今後の課題ということになります。

必要性については、この資料にあるとおりですけれども、私はこれによって、子供の論議とは離れてしまいますけれども、利点があるかなと。一つは、やはり少子高齢化が進みますから、選択と集中。要するに町も、先ほどの人口推計を見ますと、人口減少は避けられない。日本の経済自体も縮小していく中で、大変なところに費用を充て、小さい費用で大きな効果を生み出していくことが必要になっていくので、学校が一体となることも必要かなと思います。

もう一つは、今も小中連携していますけれども、やはり、それぞれ校長先生がいらっしゃるの、それぞれが主体性をもって教育活動をしています。繋がれるところは繋がりますけれども、「いや、ここはちょっと」となるところも、無いわけではありません。そうすると、この義務教育学校のリーダーは、一人ということですから、より一層、融合した月形らしい取り組みができるのではないかなということで、必要性を感じています。

長くなりましたけれども、課題としては、小学校の6年生で、6年生は6年生のリーダーシップをとって卒業していきます。9年間になると、9年間変わらない中で、どう刺激を与えながら取り組むかというのが、非常に経営側としては、工夫が必要かなと思います。

- ○（東出委員）本町の課題とかいろいろ説明していただいて、これから少子高齢化、皆さんおっしゃったとおり、この義務教育学校を施設も含めて、概ね私個人としては賛成です。やはり、そのためには、保護者と地域の理解が必要になってくると思います。先ほども保護者の意見、いろいろな意見を聞きたいということでしたけれども、私個人としては、やはり中学1年生が義務教育学校になったら7年生、8年生ということで、周

りにどう受け止められるか。高校入ったときに、私自身も複式で、あまり複式と言っても理解されませんでした。今、歌志内などでも高校に行ったときにどのように周りが受け止めているか。私のときは、保護者にきちんと説明をして、きちんと受け入れられています。「こういうところが少し困っています」と分かりやすく言ってもらった方が、保護者としても何となく分かるのかなと個人的には思っています。

もう一点ですが、自分の経験ですけれども、複式出でとても人数が少なかったです。やはり一クラスの集団で固定化されてしまっている。それが月形中学校へいくと、すごく大きな集団で、なかなか馴染めませんでした。馴染める人もいました。そのような経験は、少しでもあった方がいいのかなと思います。これが9年間になると更に固定してしまって少し刺激が。地域と先生方は分かります。同年代の人の刺激が少し足りないのかなと思って聞いていました。当時、月形町内では、複式3校、札比内小中学校、月形小学校があって、複式3校と札比内も入ったかもしれませんが、修学旅行や研修旅行に行きました。そのように昔は月形町内だけでした。今は管内全体で、そういう学校が出てきているので、管内全体でそういう交流も将来的に出てくるかもしれません。少し他校との連携を考えていっていただけたら、新たな集団に入ると、こういうことをするんだという経験になると思っています。そのようなところを少し検討していただければと思います。

- ○ (堀(誠)委員) 賛成で、とてもいいと思います。一つ分からないのは、素人で分かりませんが、さっき言ったように小中学校が同じところと、この義務教育学校の制度が違うといったら、それまでなのでしょうけれども、何が違うのかなと。そこがちょっと疑問に思いました。小中学校ではだめなのかというような。

● (主幹) 決定的に違うのは、組織が2つか1つかということになるかだと思います。小中学校では、校長先生が小学校で1人、中学校で1人になります。義務教育学校になれば、校長先生は1人で1から9年まですべて一つの組織になるというところが決定的に違うところかなと思います。

○ (堀(誠)委員) 札比内は、校長先生は二人いたんですか。

● (主幹) 札比内は一人です。教頭は2人でした。

○ (堀(誠)委員) それではだめなんですか。

● (主幹) それでも、やはり教育課程が二つで別に分かれていたり、組織が別になります。視察に行った歌志内の方でもお話を聞かせてもらいましたが、一つの組織になって一つの教育課程で実施した方が、教育効果も先生方の効率も、義務教育学校の方がよいということでした。

○ (堀(誠)委員) 子供たちもそう思っているんですかね。児童さんもそう思っているんですかね。

- (主幹) ちょっと、そこまでは。
- (堀(誠)委員) そこら辺が知りたいですよ。子供たちがどう思っているのか。大人は大人の事情があるので。子供たちの学校なので。子供たちがどう思っているか。特に6年生、7年生がどう思っているか興味があります。
- (主幹) なかなか、子供たちまで聞ける状況にはなかったものですから。今は学校を通じて。
- (堀(誠)委員) 例えば、直接聞くのではなくて、そういうデータがあるとか。例えば、他の自治体でもやられていると思うので、そういった子供たちの声みたいなデータがあれば、より議論が良くなっていくのかなと思います。そういうのがあればいいと思います。
- ○ (津坂委員) 先ほどの11頁のデメリットの②、今の義務教育学校の中では1年生から9年生までということになると、②のところは小学校の卒業式という部分、これは説明の中では廃止ということだったんですか。
- (主幹) これは、今後の議論になります。設立の段階で、例えば、無くすことも、そのまま前期課程修了式として、卒業式相当のものを残すこともできます。学校と地域全体で考えていけることになります。
- (津坂委員) 自分も札比内小中学校だったので、子供たちもそうですけれども、小学校の卒業式があつて、4月から同じ学校ですけれども、隣のクラスになって、中学校1年生になります。やはり、ある意味けじめは大事だと思います。義務教育学校だから9年間ですと一つという部分もいいですけれども、その中には、やはりけじめというか、小中学校という名前でもいいのかなと思ったりもします。先ほど堀委員が言われたように、そうすれば、小学校卒業式があつて中学校卒業式がある。何か9年生という慣れしていないから、少し変な感じがします。少し違和感があるというか。個人的にはいいことだと思うし、これで向かっていっていいと私は思っています。
- (教育次長) 今の子供たちの呼び方ですとか、制服の関係ですとか、小学校の卒業式や中学校の入学式をどうするか。このようなどころについては、本当に保護者の皆さんと先生たちにも入っていただきますけれども、そのような場で議論をしていって、設置するということが決まった場合には、その後、協議を進めていくという形になると思います。歌志内に行ったときも、歌志内の学校は、来年度からは小学校の入学式と9年生の卒業式だけ、4年生では1/2成人式や立志式を行うというお話がありました。それは、その学校で考えて実施していることですから、うちが設置された時には、小学校の入学式を行うとか、6年生の卒業式を行うとか、何年生の入学式を行うというのは、その辺は皆さんで協議しながら決めていけるということになっています。
- (山下委員) 義務教育学校というのは、文部科学省の基準で9年間で1年から6年ま

での前期課程、7年生から9年生までの後期課程と制度上そのようになっています。歌志内さんのお話になってしまいますが、6年生が終わった段階で、前期課程終了となるので、修了式のようなものをやる予定と私は聞いていました。その中で、9年間で3つに区切り、それぞれの発達段階に応じて分けるということなので、例えば、極端にいうと1年生から4年生、5年生から中1、中2と中3に分けると、小学校6年生が前期課程で終わりますけれども、同じグループに7年生という変則な状況になります。3つのグループの中でそれぞれ取り組んでいって、最終的に「9年間で子供たちを将来どういう社会人にさせるか」という共通認識を持つ、そこがゴールになります。「9年間で子供たちを社会に出ることができる人間に育てる」という目標を9年間でやるという狙いで取り組んでいるという話を聞きました。

そのような認識で、確かに新しいスタイルなので私も最初、歌志内に行くまではあまりイメージを掴めませんでしたけれども、先ほどお話しましたとおり「皆さんで新しい学校を作りましょう」というスタイルで、確かに9年間の中で変則ですけれども、そういうこともこれからいろいろと私も勉強していきますし、保護者説明会など様々な場面で、皆さんのいろいろな意見を聞きながら、オープンに進めていければいいと思います。

- ○ (竹田会長) いろいろご意見も出ました。全体を通して皆さんの意見を聞き、私も会長という立場ですけれども、行政区の立場から出ております。全住民的な考え方として自分はこの立場であることの中で、皆さんの意見を聞いていると「どちらかという設置については、前向きに考えよう」、「その中で課題があれば、今後、いろいろと解決していこう」というような方向性だったと思います。

私も個人的な意見を言わせてもらえれば、以前の小中学校が統合したときはいろいろな話になっていました。その当時は、はっきり言って地域の学校というのは、地域との密着性はすごく強かったです。私は月形だったものですから、それほど感じてはいませんでしたけれども。例えば、学校の運動会、学校ではない地域ぐるみの運動会、学芸会なども、みんな町内会のお祭りみたいに学校を中心としたような活動でした。

やはり、卒業生にすると、統合することによって「自分の学校が無くなる」とか、そういう考え方の人も大勢いたと思います。私も十分に理解できるし、当時、そのようなことで意見があったのは理解しています。例えば、今回の義務教育学校の設置については、住民的にはそんなに異論があるとは、はっきり言って、いろいろな人たちの意見を聞いていますけれども、それほど、昔の統合したときの当時の感覚とは、まったく違うという思いはあります。そのような中で、私もどちらかという、私たちの立場からすると、設置については、「もう、異論はない」、反対するような理由はないですけれども。本当の話、今の町の現状、人口の問題だとか、いろいろ考えると、そういう方向に向かう時期だなという思いは実はあります。今、結論を出す時期ではないので、皆さんの意

見も総合して、そのような空気があるのかなという思いであります。

- ○ (竹田会長) 皆さんの方からご意見がなければ、今回はこれで。

※ 意見・質疑等なし

- (竹田会長) 今申し上げましたけれども、今日、結論を出すということではないので、どちらかというところに向けて、そちらの方向に向けて、皆さんと協議していきたいなと思います。今後とも一つよろしくをお願いします。

### (3) その他

【説明：主幹】

- 次回の開催について
  - ・ 義務教育学校の設置の方向性ということで進める。
  - ・ 今ほどの審議の中で、保護者の声、子供の声がどうかというところがありましたので、確認できる部分があれば、次回、資料をお示ししたい。
  - ・ 次回は、学校の設置場所、設置時期、校舎などについて審議を予定したい。  
整備にあたっては予算の関連もあるので、どのようなものが提示できるか年内に内部でも詰めていきたい。  
そのようなこともあり、当初、12月開催を予定していたが、1月の開催としたい。

## 4 閉 会

【挨拶：竹田会長】

- ・ いろいろご審議いただきましてありがとうございます。今、会議の中でお話しましたけれども、方向性は少し見えてきたのかなという皆さんの意見でした。そのようなことで、今後、その方向性に向かって、課題はある訳ですけども、それらについて、また、いろいろ皆さんの忌憚のない意見をいただきながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。大変どうもありがとうございました。

(終了：午後6時10分)

## 令和3年度 第2回月形町義務教育学校設置審議会

■開催日：令和3年11月30日

■任期：R03.11.02～R04.11.01

No	役職	氏名	所属等	出欠	備考
1	会長	竹田 紘一	月形町行政区連絡会議	出	
2	副会長	東出 敏幸	月形中学校PTA代表	出	
3		津坂 佳史	月形町行政区連絡会議	出	
4		堀 誠哉	月形町行政区連絡会議	出	
5		松浦 朝太郎	月形小学校PTA代表	欠	
6		堀 美百紀	月形町認定こども園花の里こども園保護者代表	出	
7		鈴木 智穂	月形町認定こども園花の里こども園保護者代表	出	
8		山下 正志	月形町校長会	出	
9		箕田 裕	月形町教頭会	出	